

辻議員（共産）

令和2年9月28日
教育長答弁実録
（教育委員会）

（問）少人数学級の拡充について

中学3年生まで35人学級を拡大すると、279名増員の定員と約22億5千万円経費がかかるということだが、やはりコロナ禍の中で密を避けるということからも少人数で学校での授業が行われるということが求められており、広島県としても段階的に対象の学級年齢を引き上げていくということをやってはどうかと思う。

文科省も1学級当たりの生徒数の上限を今後10年かけて30人に引き下げた場合、少子化によって追加的な財政負担もほとんど必要なしでできるといった試算を明らかにした報道もある。

コロナ禍の下で身体的距離をとるべきという点からも広島県も少人数学級を計画的に進めていくべきだと強く求めるが、この点について再度伺う。

（答）

小中学校における少人数学級の拡充につきましては、先程、答弁申し上げましたように、国が責任を持って標準法の改正を行い、導入されるべきものと考えております。

繰り返しになり申し訳ございませんが、引き続き、様々な機会を捉えて、国に対して要望してまいりたいと考えております。